

# BEST

## Recyclers Alliance

# NEWS

ベストリサイクルズアライアンスニュース  
中古・リビルトパーツのご提供で  
お客様との夢をつなぐ情報誌

2018.6  
Vol.180

### 日本ELVリサイクル機構の2018年定期社員総会

# 新組織結成に着手し常任理事選出に動く 全国9県の空白地解消に向け支部制を採用



▲都内の鉄鋼会館で開かれた日本ELVリサイクル機構の2018年定期社員総会



▲総会後に持たれた懇親会では関連業界及び行政官庁関係者多数が参加して盛り上がりを見せた



▲懇親会で開宴のあいさつをする酒井康雄  
日本ELVリサイクル機構代表理事

▲懇親会で乾杯の首頭を執る栗原裕之  
日本自動車リサイクル部品協議会代表理事

日本ELVリサイクル機構(酒井康雄代表理事)は2018年度の定期社員総会を都内鉄鋼会館で開催し、審議中であった日本自動車リサイクル部品協議会(栗原裕之代表理事)との組織統合について具体的な処理に着手した。すでに同機構に組織として入会を済ませた日本自動車リサイクル部品協議会側の理事との合同の新しい理事会を発表すると同時に今後の事業方針その他を決議し、無事に予定した審議を終えた。また総会議事終了後に統合に向けての情報交換を行うなど入念な審議を展開し、後半は懇親会も開き、和やかな雰囲気の中で総会を終えた。

6月13日、午後1時から都内の鉄鋼会館(東京都中央区日本橋)で日本ELVリサイクル機構の2018年度の定期社員総会が開かれ、来年4月1日に予定されている日本自動車リサイクル部品協議会との組織統合に向けての準備作業が本格化し、審議の要となる統合に向けての理事会結成、及び常任理事の選出が行われた。

#### ◆予定の議案すべて異議なく了承

総会は例年通り1号議案として一連の報告の後、2号議案として支部制導入が挙げられ質疑応答の後、原案通り了承された。具体的には①

現在ある窓口空白県9府県に早急に支部を開設する②組織開設当時の1000業者体制を志向する③実稼働は2018年7月1日を支部制採用の目処とすることが決まった。

さらに3号議案は第14期事業計画案として①日本自動車リサイクル部品協議会との合流の合意に基づいた会員拡大・組織強化に動く②2020年のリサイクル法見直しに合わせリサイクル料金の新車購入時のみの納付を提言する③中国雑品輸入規制に伴う問題への対応④樹脂・ガラスのリサイクル取り組みの強化⑤自動車リサイクル士制度の業許可能能力要件化の取り組み⑥リ協との合流を機に部品リユースに関するボリュームアップに取り組む⑦2020年東京オリンピック・パラリンピック組織委員会が実施する「都市鉱山から作るみんなのメダルプロジェクト」への参加(スライドドア接点の銀回収作業など)⑧外国人技能実習制度対象職種への自動車リサイクル追加の提言強化など多岐に亘って取り組むことが明らかにされた。

続いてブロック長会(報告者・平地健ブロック長会議長)、リユース部品部会(同・長谷川利彦部会長)、トラック・バス部会(同・宮本真希部会長)、リサイクル技術部会(同・三木康弘部会長)、広報部会(同・永田則男部会長)、未来部会

(同・吉岡篤史部会長)、資源循環委員会(同・木内雅之委員長)、及び各地域ブロックの活動計画案の説明が行われ、リ協との合流を想定した新年度の新組織図の提示も行われそれぞれ承認された。

#### ◆常任理事総数12人が選任受ける

さらに4号議案として理事の選任について来年度のリ協との組織統合に向けた両組織選出の総数26人(別項詳報)の理事候補の名簿が示され承認を得、総会の予定を終えた。

一旦休憩の後、2018年の本部活動のスケジュールが示され、総会後のフリートーキングの時間が持たれた。総会参加者からのこれまでの流れのなかで感じた疑問点などに本部執行部が回答し活発な意見交流がなされた。

その後、別室で懇親会が開催され、酒井康雄代表理事の開宴の挨拶の後、自工会、経済産業省、環境省など関連諸官庁の祝辞に続いて、日本自動車リサイクル部品協議会の栗原裕之代表理事が乾杯の首頭を執り、参加者間の情報交換の時に移った。

とくに今回の懇親会には国内の自動車リサイクルに関係する著名人や関係者が多数が顔を見せ、今年の日本ELV自動車リサイクル機構の活動についての関心の深さを窺わせた。

# ELV・リ協の双方から12人 末端の意を汲む常任理事選出

日本ELVリサイクル機構と日本自動車リサイクル部品協議会の組織統一の話し合いが、いよいよ佳境に入って来た。このほど開かれた日本ELVリサイクル機構の定期社員総会では両組織の合流を意識した理事の選任が明らかにされ、26人の理事の中で合計12人の常任理事が選出され、新しい執行部として発足、今後の組織統一のための実務が開始されることになった。

6月13日の日本ELVリサイクル機構の定期社員総会で明らかにされた理事の顔触れをみると理事総数26人は双方の組織から半数ずつ選抜され、理事会を構成すると同時に、そのうちの12人が常任理事としてさらに絞り込まれ、来年4月1日の新組織立ち上げまで暫定的に執行部を構成することになった。

当面、執行部の首脳陣は日本ELVリサイクル機構が占め、代表理事、副代表理事は全員が日本ELVリサイクル機構出身者で固め、リ協側は全員理事に収まる。その一方で、常任理事としては先述の通り双方から同数6人ずつが就任し、議事運営に当たることになる。(理事名簿参照)

またリ協側の選抜された理事全員が自動車リサイクル部品流通組織の代表者で構成されていることから、本質的には日本ELVリ



▲リ協側の理事打ち合わせの後の正式な新組織設立に向けての新理事全員の記念撮影

サイクル機構の首脳陣を実務上支える形になっている。

さらに新組織の名称は変更が予定され、これまでリ協を構成してきた部品流通に関わる会員は新組織内では部品部会を構成することになる。

構成事業者数でみるとELV側とリ協側では双方約500社ずつと見られるが、内容的には両方のメンバーシップを既に有する事業者が約300社はあるといわれている。今回の組織統一でふたつの組織が一体化すれば、実質的には総数約700社の新組織誕生という計算になる。このことから今後の組織目標としてはこの約700社体制を早急に1000社に拡大したいというのが上層部の思惑。

全国規模で概観すると自動車のリサイク

氏名	役職名	推薦元
1 酒井 康雄	代表理事	ELV機構
2 石上 剛	副代表理事	ELV機構
3 永田 則男	副代表理事	ELV機構
4 木内 雅之	副代表理事	ELV機構
5 埜村 岳史	副代表理事	ELV機構
6 平地 健	地域ブロック長兼 地域ブロック長(東北)	ELV機構
7 山口 一幸	地域ブロック長(北海道)	ELV機構
8 小林 信夫	地域ブロック長(関東)	ELV機構
9 新井 雄士	地域ブロック長(中部・北陸)	ELV機構
10 赤松 健一	地域ブロック長(近畿)	ELV機構
11 岸本 恭秀	地域ブロック長(中国・四国)	ELV機構
12 森田 光弘	地域ブロック長(九州)	ELV機構
13 松田 和生	地域ブロック長(沖縄)	ELV機構
14 栗原 裕之	広域ブロック長(自動車修理部品研究会)	リ協
15 佐藤 幸雄	広域ブロック長(NGP)	リ協
16 今井 雄治	広域ブロック長(JARAグループ)	リ協
17 針ヶ谷昌之	広域ブロック長(テクスネットワーク)	リ協
18 早川 一二	広域ブロック長(日本パーツ協会)	リ協
19 深澤 広司	広域ブロック長(リビル工業会)	リ協
20 土居 英幸	広域ブロック長(システムオートパーツ)	リ協
21 鳩村昭二郎	広域ブロック長(部友会)	リ協
22 服部 厚司	広域ブロック長(ビッグウェーブ)	リ協
23 岡田 誉伯	広域ブロック長(ARN)	リ協
24 中西 孝二	広域ブロック長(シーライオンズクラブ)	リ協
25 北島 宗尚		リ協
26 田村 幸男		リ協

常任理事名はG体

ル事業に携わる事業者数は約3500社から4000社存在していると観測されることから、組織未加入事業者に向けての勧誘活動は来年以降一気に加速される見通しだ。(ベストニュース編集部)

## リビルの富士金属興業(株) DM・TOP通信を鋭意発信で注目 わたしがお付き合いしたい著名人に贈呈しております。



▲富士金属興業のトップ通信DM

顧客囲い込みの手法として利用されるものにPR用のダイレクトメールがあり、最近のものは商品解説の姿勢が客観的で説得力の溢れるものが増えている。しかしわれわれの業界ではこのDM戦術がまだまだ普及するところまでは至っていない。

そんな環境下で富士金属興業(株)(石橋伸太郎社長・本社静岡県浜松市)が今年の春から異色のDMを発信して注目を集めている。先述したように記事の書き方が完結明瞭で示唆に富む国際的な自動車リサイクル情報で占められていて、視野の広い向きほど引き込まれる表現で会心の出来栄だ。

発行元の石橋伸太郎社長に背景を聞くと「このDMは業界のトップ層向けに発信してい

ます。わたしがお付き合いしたいと日頃から思っている著名人に贈呈させていただいており、最初の第一便にはわたしの信書を添えております」とほほ笑む。内容がピリッと塩味が効いているので必ず反応があり、ビジネス効果は抜群らしい。「現場同士では取引があっても直接取引先の代表者とは繋がりが全くないうちにこのDMをお送りすると『富士金属興業』てどんな企業だと必ずトップのお声がかかります」という。但しこのDMは全て石橋社長の手造りなので簡単に真似ができないのが難点ではある。(ベストニュース編集部)

## 外部講師招いて内容充実 社会人の心得を深く習得



▲これまでの基礎研修をさらに充実させて名称を導入研修に変更した



▲参加者を激励する土門志吉JARAグループ会長



▲3日間を素敵な時間にしてほしいと挨拶する北島宗尚株JARA社長

JARAグループ(株)JARA主催の第13回導入研修会が5月24から26日の3日間、愛知県岡崎市の愛知県青年の家で開催され、JARA会員と提携ビルトメーカーなど24社39名の研修生が参加した。

開会式でJARAグループの土門志吉会長は「今回の参加者は、携わる業務も違えば、入社間もない方、ベテランまで様々な方に参加いただいている。より良い研修会とするため

にも、固定観念は捨て新しい目線で取り組んでほしい」と研修生を激励。続いて(株)JARAの北島宗尚社長は「内容も従来から多少変えているが、本質や伝えたいことは変わっていない。素の自分となり、3日間を素敵な時間とできるかどうかは自分たち次第だと肝に銘じて臨んでほしい」と挨拶した。

本研修会は、これまで開催されてきた「基礎研修会」から名称変更されたもの。今回は

基礎研修会の流れを汲みながらも、外部講師を招いたマナー研修や自動車基礎知識セミナーといった知識導入部分において、より一層カリキュラムの充実を図るものとなった。研修生は、社会人としてのマナーや自動車リサイクルとしての心得について団体行動を通じて学び、また自己分析の中から課題を見つけ改善へつなげるプロセスを学んだ。

## SPL営業支援システム説明会

### 渡辺自動車と(株) JARAで 生産タブレット版アプリの解説 東北地区で初の開催

(株)JARAでは5月19日、(有)渡辺自動車と(株)JARA仙台支店の二か所でスーパーラインシステムの生産タブレット版アプリケーションと営業支援システムの活用方法についての説明会を開催した。

当日の前半は会場を(有)渡辺自動車に置き、生産タブレット版アプリケーションの操作説明を、一旦休憩の後、後半は(株)JARA仙台支店で

スーパーライン「スマホ版アプリ便利機能」と同営業支援システムの説明をそれぞれ行った。

説明会には現場で目下同システムを活用中の(株)三重パーツ販売の齊藤徹社長と(有)金森商会の金森弘元社長が講師に立って具体的な使用方法を参加したメンバーに解説、好評だった。

特に営業支援システムは入庫前の仕入れ活動段階での車両の管理が微細に展開できることから、現状の仕入れ車両対策に悩む中小規模の事業者には格好の手法で、導入に付いて真剣に取り組みたいという意見が目立っていた。今回の説明会は先般、岐阜の(有)金森商会で開催されたものに引き続いて二回目、東北地区では初の説明会となった。



▲渡辺自動車で開かれた生産タブレット版アプリの説明会



▲株JARA仙台支店で開かれたスマホ版アプリと営業支援システムの説明会

## (株)ビッグウェーブが名古屋の本部でトラック部品研究会開催



▲はじめに株BW服部厚司社長からの激励の言葉を受ける受講生たち



▲電話対応のロールプレイングは熱が入っていた

(株)ビッグウェーブでは5月19日、ビッグウェーブ本部会議室でエルフ、キャンターの外装及び機能部品に照準を合わせた第三回トラッ

ク部品研究会を開催した。

研修は当日13時30分から開始され、まず前回までの経過説明の後、①問い合わせ対応からの商談展開(ロールプレイング)②問診及び価格設定からの商談展開(売り込み手法)③クレーム対応などを学習した。

その後、参加者の事例発表とともに対応ポイントの解説や質疑応答の時間も持たれた。セミナーの講師は◇牧光洋氏(有)ビッグウ

ーブカワサキ◇高見雅文氏(株)山田車両◇寺内雅哉氏(株)エコアール)の三氏が務めた。ビッグウェーブグループではトラック部品の販売強化を打ち出しており、一連の研修会は4回で終了する予定で第4回目は部品検索をテーマに年内開催を予定。同社服部厚司社長は「100年に一度の変革期に遭遇している。小型車のみならず大型車の取り扱いを強化して難関を乗り切りたい」としている。

ビッグウェーブグループ

段 健二 氏

株式会社井戸本

**深く根を張る部品販売で実績  
入社17年目のベテラン配置**



▲地元では名の通った老舗の同社 ▲段 健二フロント主任

奈良県のビッグウェーブメンバーである(株)井戸本(井戸本直也社長)が今回の訪問先。創業は昭和50年で現在、総社員数は13人。部品の在庫量は約8000点で、軽自動車から大型トラックまで、乗用車と商用車の双方をフォロー、地元では商用車にも強い井戸本として名前が通っている。

◇顧客の思いを正確に汲み取る商売

そんな同社のフロントを管理するのが段健二氏(49歳)で、同氏は入社して17年目を迎えるベテランだ。同社に来るまでは地元の日産系新車ディーラーで13年間、サービス部に勤務し、整備を経験してこちらに来た。

「もともとクルマ好きで、さらに一歩踏み込んで自動車全体を完全にバラしてみたいという気持ちが強かった」という。念願がかなって現場の解体を経験できたが、「ディーラー時代の癖でもう一度組み立てるといった感覚が抜けきらず、解体速度が遅くて周囲から笑われたことも…」と当時を振り返る。

そういう経緯もあって現在、社内で部品を見る目は結構厳しく、同社のブランド維持に役立っていると見える。「わたしの商売のやり方はお得意さまのお気持ちをまず大事にしたいという点です。ですから先方のご事情に合わせた値決めや品定めを細やかに整えてあげられるというところですが、昨今はそういうビジネスがなかなか難しくなってきました」という。

◇値段だけの取引を避ける企業努力

世間の動きが騒がしく、値段が安ければそれでOKといった軽い雰囲気は充滿して、味わいのある取引の出る幕がないともいうのだ。

「言葉使いも短兵急に問を省略した言い回しが多くなって、お客様との心の交流が薄くなってきているようです」と嘆く。

例えばインターネットビジネスではなおのことそういう心の取引は影を潜める。「時代の流れだとなかなか割り切れないわたしのほうが古いのかも」と言いつつ、今様の雰囲気は嘆いている。土地柄、まだまだ顔と顔、心と心の商売が大事なのではないかと苦悶する段さんだ。丁寧な商いのやり取りを忍耐強く追い求める硬骨漢である。

職場 奈良県御所市大字室226  
TEL0745・63・1611

JARA会員

坂本 美樹夫 課長

株式会社伸生

**本邦屈指の社歴誇る名門業者  
今年からJARAの仲間に入る**



▲自動車リサイクルの真髄極めた同社 ▲坂本美樹夫 国内担当課長

今年2018年の2月から(株)伸生(多屋貞一社長)が(株)JARAの正式会員になり、ATRSシステム導入と同時に保有の在庫部品の登録を開始している。同社は近畿圏で最古の歴史を誇る自動車リサイクルの老舗で今後の成り行きが注目される。

◇学卒後即入社の生え抜きを窓口

そんな同社の国内部品販売の責任者が坂本美樹夫課長(44歳)である。同氏は学卒後即の入社で、今年で27年目を迎える現場の要である。「JARAさんのシステムには目下データの入力を始めたばかりでお役に立っていないのが心苦しい」と謙遜するが、この業界の誰もが認める名門中の名門で、早晚、強力な戦力になるのは目に見えている。

現在、総入庫量は約800台で部品の在庫量は13000点の規模。かねてよりの地元重視の商いで地盤は強固なものを既に築いている。「かつては3000台から4000台を入庫させた時代もありましたが、今でははっきり商品化できる台数として約800台ラインが無難な線です。着実な需要の掘り起こしを心がけ、受注したら即座に納品という姿勢を保っています」という。

◇部品以外の自動車ビジネスにも実績

ちなみに部品以外では中古車の展示販売、オイル交換、タイヤ交換などもビジネスとして軌道に乗せ、地元のカーユーザーには重宝がられている。「例えば排気量単位でオイル交換の値を決めており、軽自動車は660円、1500CC車は1500円で交換します。結構人気があります」と笑う。

さらにYAHOOオークションにも注目しており、スポーツ車向けのアルミホイールなどはインターネットに積極出展で、世間の動向を注視するなど幅の広いビジネスを展開中だ。

ともかく同社の創業は日本の自動車解体業の歩みと歩調を合わせる程の歴史があり、先代時代からの業界功労は計り知れないものがある。自動車リサイクル法施行時代に入った同社のこれからの動きに関係者の視線は集まっている。(株)JARAとしては強力なメンバー参入であり次の場面が楽しみである。

職場 大阪府堺市美原区木材通り4の15の15  
TEL072・361・3131

JARAグループ

松葉 聡 氏

株式会社トライワード

**日本郵便の廃車引き取りで実績  
一台当たりの部品生産性を重視**



▲丁寧な生産で地元の信頼勝ち取った同社 ▲松葉 聡生産主任

今回のJARAグループの訪問先は岐阜県高山市の(株)トライワード(佐藤謙二社長)だ。同社では軽自動車と乗用車を主力に一台当たりの生産効率を最大限に引き上げる生産手法で良質の部品を供給する姿勢を打ち出している。

◇新品部品の管理熟知した生産で成果

そんな同社の生産を仕切るのが松葉聡生産主任(51歳)だ。同氏は入社して13年目のベテランで、この道の裏表を熟知している。

入社以前は新品部品のメーカーで13年、トラック運転で2年のキャリアがあり、自動車についての基本知識は持ってこの業界に入ってきた。「自分の自動車知識をもっと生かす職場がほしかった」という。

佐藤社長と巡り合って意気投合。一歩深く自動車に関わりを持つ機会に恵まれ、自動車解体の世界に足を踏み入れた。ということで最初から「もう一度組み立てて走らせる自動車の解体」が松葉流の解体となって行った。

「当社が保障している以上はお渡した部品をできるだけ長く使ってもらいたい。だから最初の解体の段階で見極める生産が信条」としている。

◇一般消費者向けの小物部品にも注力

さらに最近のインターネットの特徴について「なんでもない小物部品、パイザーとか取っ手など見過ごし勝ちの商品が意外と一般消費者に受ける。整備の専門家筋の需要と並行して複眼で準備しなければいけません」ともいい、世間の微妙な動きにも敏感だ。

そういう市況のもとで同社では日本郵便の郵便車の廃車車両に的を絞って受け入れを行い、ここからかなり高品質な部品を生産している。「郵政の車両は赤いクルマとして一部では敬遠されているようだが、車両管理が行き届いており、入庫前にその車両の特性や整備歴を正確に教えてもらえるので、生産の効率を上げるのに極めて都合がいい。とくにエンジンに関しては整備がしっかりされていて、売りやすい部品が安定して生産できます」としている。多忙な松葉主任の余暇は最近始めた上司水口氏とのスキューバダイビングで埋められている。主に沖縄の清み切った海で思いっきり潜ることで仕事のやる気を持続させている。海での余暇で自分を取り戻すキーマンだ。

職場 岐阜県高山市匠ヶ丘町1の34  
TEL0577・33・7275

